

【事業名】「海鳥をとりまく自然環境の保全」と「羽幌地域の産業振興」の両立に向けた取組
（北海道羽幌町） 【団体名】羽幌地域生物多様性保全協議会

平成30年度 生物多様性
保全推進支援事業
実績報告書別紙 9 - 6

事業の背景・目的

日本海に浮かぶ天売島は、ウミガラスなど100万羽の海鳥が繁殖し国定公園や国指定鳥獣保護区に指定される海鳥の楽園であるが、近年は周辺環境の悪化などにより海鳥の個体数の減少が見られている。今後の海鳥保全のためには、羽幌地域の森里川海といった自然環境全体の保全を進めていく必要がある。また自然環境と関わりが深い地域産業と協働を図り「海鳥をとりまく自然環境の保全」と「羽幌地域の産業振興」の両立を進めることが重要である。

事業の内容

平成30年度

①地域連携保全活動計画（案）の検討

「羽幌町の環境を守る基本計画」の重点プロジェクトである「海鳥をとりまく自然環境の保全」と「羽幌地域の産業振興」の両立の、具体的な取組であるシーバードフレンドリー（以下、「SBF」という。）認証制度について、地域連携保全活動として実施するため、地域連携保全活動計画（案）を検討した。

②シーバードフレンドリー認証制度の創設・運用事業

SBF認証基準を検討、作成し、羽幌地域で行われている3つの事例（特別栽培米の米作り、地元漁協による海鳥の混獲対策の“洋上実験”の実施、地元企業による販売にかかる環境CSR活動）についてSBFの試験認証を検討した結果、2つの事例を認証した。認証を行う過程で課題などを明らかにし、次年度の認証制度の追加、普及に向けた参考とする。

③「生物多様性の見える化」のための自然環境調査事業

農薬などを削減した特別栽培米の圃場周辺で「生物多様性の見える化」を行うための自然環境調査を実施し、得られた結果をSBFの基準作りや自然環境に優しい手法で作られた製品の販売促進の一助とする。なお、調査の一部は地元高校と協力し実施した。



平成31年度

①地域連携保全活動計画（案）を作成し、羽幌町としての作成を促すとともに、作成した地域連携保全活動に基づき、②SBF認証制度の普及啓発促進、③「生物多様性の見える化」のための自然環境調査事業の効果的な実施につなげる。

得られた成果

地域連携保全活動計画（案）については、検討の結果、羽幌町の環境を守る基本計画の重点プロジェクトである「SBF認証制度の創設・運用」の具体的な取組として位置づけ作成するものとした。

SBF認証制度については、2つの事例を認証したが、認証検討等の過程のなかで、海鳥をとりまく自然環境の課題等の理解が深まった。また、認証制度自体を普及啓発することで、天売島の海鳥をとりまく自然環境の保全と、地域産業の振興により羽幌の地域活性化にもつながることなど、徐々に町民へも理解が浸透してきている。

また、「生物多様性の見える化」事業については、一年を通じた地元高校との連携（総合学習32時間）”の”中で実施することにより、羽幌地域の環境保全の気持ちや郷土に関心を持つ若い世代の意識向上に寄与することができた。なお、地元高校との連携の結果、SBF推進協議会と地元高校がパートナーシップ協定を締結したことにより、更に自然環境調査等のへの連携が強化されたと考える。

将来的には、作成した地域連携保全活動計画に基づく活動が展開され、SBF認証制度が広く普及し、事務局を行うNPOを立ち上げるなど、同制度の運営を行う体制を構築するほか、同NPOが海鳥調査や普及啓発など「海鳥を取り巻く自然環境の保全に関するトータルコーディネイト」を行う団体となることで取組の継続を目指す。